

ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.43
October 2019

目次

CONTENTS

古くて新しいメディアミックス —視聴覚資料(映画作品)と原作・関連図書について 館長 …	1
古本 副館長……………	2
ある書籍の所蔵印をたどって —佐賀大学附属図書館への期待……………	3
本館・分館で行っているテーマ展示……………	4
ラーニング・コモンズの利活用……………	5
オリエンテーション・講習会……………	6
佐賀大学機関リポジトリ ……………	6
図書館サポーター＝さらりーずの活動……………	7
オープンキャンパス……………	7
図書館月間2018 ……………	8
実習・研修生の受け入れ……………	8
図書館の施設整備……………	9
防災訓練を実施……………	9
図書館統計……………	10
受入資料紹介……………	14
人事異動……………	14
図書館日誌(行事・会議・研修等) ……………	15
貴重書紹介 小城鍋島文庫『新編水滸画伝』	



古くて新しい メディアミックス —視聴覚資料(映画 作品)と原作・関 連図書について

館長 山崎 功

附属図書館では学生の修学支援の一環として、みなさまのご助言をもとに外国語(英語)学習、国際理解・異文化・歴史学習につながる視聴覚資料の紹介と関連図書の拡充に取り組んでいます。DVD/Blu-ray視聴覚資料(映画作品)は、日本語を含む多言語音声・字幕に切り替えて視聴できることから、日本語を母語とする学生の外国語学習のみならず、各国留学生の日本語学習にも大いに活用できるとのご助言いただきました。そこでこの秋、学生希望や先生方のご推薦とあわせて、近年の注目映画、古典作品などを紹介します。原作本、関連図書なども紹介するミニ企画が図書館スタッフにより準備中です。

附属図書館ではこれまでも学生のみなさんの図書館への誘いとして話題作『悪人』(吉田修一原作、吉田修一、李相日脚本、李相日監督映画作品)、『西の魔女が死んだ』(梨木香歩原作、長崎俊一監督映画作品)、『容疑者Xの献身』(東野圭吾原作、福田靖脚本、西谷弘監督映画作品)など、数多くの話題の映画と原作本をあわせて紹介しています。学生のみなさんにまずは図書館に親しんでいただくことをめざし、これからも大学図書館ならではの利用提案をすすめていきます。

特に今回、第二次世界大戦勃発80年を意識しています。なかでもイギリス国王ジョージ六世やウィンストン・チャーチルの有名なスピーチを描いた映画作品があります(クリストファー・ノーラン監督作品『ダンケルク』、トム・フーパー監督作品『英国王のスピーチ』、ジョー・ライト監督作品『ウィンストン・チャーチル——ヒトラーから世界を救った男』など)。史実との相違を指摘する研究もありますが、人間の志とスピーチの力を考えさせる魅力的な作品だと思えます。

また、第一次大戦終戦100年、オリエントへの多様なまなざしを意識した提案もあります。東洋史上の事績、事件や人物を欧米の視点から描き出した映画作品と、その原作ともいえる回想や紀行、評伝などの書籍です。附属図書館2階の一角にある、「東洋文庫」コーナーがそれです。平凡社の東洋文庫(1963～)は日本を含むアジアの「古代から現代までの単に有名な古典だけでなく、埋もれていた価値ある書を、文学・歴史・思想・芸術・探検などの各分野にわたり、平易で理解しやすい現代日本語により提供する」ことを目的として刊行がはじまりました。『楼蘭——流砂に埋もれた王国』(A.ヘルマン著、松田寿男訳、平凡社東洋文庫1、1963年)を嚆矢として刊行、今日のシルクロードへの関心の背景を理解するための基本文献のひとつともいわれます。デジタル書籍化もすすんでいます。紙媒体で所蔵のないものでも、附属図書館利用資格に基づく電子ブックサービスのひとつJapan Knowledge Libの「東洋文庫」アクセスにより、700点近い既刊の東洋文庫電子書籍を縦横に閲覧することができます。デジタル化のおかげで、キーワードやジャンルの絞り込みなど詳細検索により膨大な既刊東洋文庫中の該当典拠に瞬時にたどりつけることもものすごい驚きです。

帝国主義の時代の一側面を描いたニコラス・レイ監督作品『北京の55日』(1963年)は、中国清朝末期の1900年、義和団の包囲を受けた列強諸国の北京籠城戦を描いています。日本、欧米諸国の外交官や軍人、民間人、清朝の西太后や宮廷官僚、中国民衆それぞれが余りにもわかりやすい欧米目線のステレオタイプに基づき描写され、日本公開時には様々な論議も起こったといわれます。若き日の伊丹十三が演じた籠城軍日本指揮官は会津出身の実在の軍人柴五郎(1859-1945)です。その温厚で功を語るを好まない謙虚な人柄と高い指揮統率力は国際的に高く評価されていました。大山梓編『北京籠城 北京籠城日記』(平凡社東洋文庫1965年)には柴五郎自身の口述録「北京籠城」が収められています。

第一次大戦下アラビア半島でオスマントルコ帝国に対する遊牧民社会の反乱を支援した英国人考古学者・軍人T.E.ロレンス(1888-1935)の半生を描いたデビッド・リーン監督作品『アラビアのロレンス』(1962年)もあります。この映画にも「原作本」ともいえる回想録がありました。T.E.ロレンスの回想録「知恵の七柱」もまた東洋文庫に収められています(〈簡約版〉T.E.ロレンス、柏倉俊三訳、1969-1971年、〈完全版〉T.E.ロレンス、J.ウィルソン編、田隅恒生訳、2008-9年。従来の『知恵の七柱』は著者ロレンス自身により3割近くが削除され、字句の加除修正等が行われた「簡約版」で、J.ウィルソンが編集した「完全版」も東洋文庫より翻訳刊行)。

一方、ロレンスと並んで第一次大戦前後の英国対中東工作の鍵となり、イラク王国建国を導いたといわれる英国人探検家・アラブ専門家ガートルード・ベル(1868-1926)の生涯を描いたヴェルナー・ヘルツォーク監督作品『アラビアの女王』(2014年)があります。この「原作本」のひとつともいえるベル自身による20世紀初めのシリア調査紀行も東洋文庫に収められています(G.L.ベル、田隅恒生訳、『シリア縦断紀行』、平凡社東洋文庫、1994-1995年)。100年前の欧米のオリエントに対するまなざしに思いをいたし、一連の映画作品と附属図書館蔵書あわせて手にとりいただけたらと思います。

また今回、人種、ジェンダー、社会的格差や戦争の問題などに鋭く切り込み、マイノリティの人々との連帯を訴える米国やレバノンなどの近年の映画作品と関連文学なども推薦提案いただいています。今後とも図書館企画へのご支援・ご助言よろしくお願います。



古本

副館長 池田 義 孝

大学生の時、通学に都営地下鉄三田線という路線を利用していたこともあり、学校の帰りには古書街で有名な神田の神保町に立ち寄ることが度々でした。あらゆる分野の古本屋があって、ガラガラと戸をあけ店内に入ると「書籍の加齢臭」みたいな独特な匂いがして、歴史を感じる学問ちっくな雰囲気が好きで通ったものです。

当時は何の専門知識もありませんから、教科書ではない本格的な専門書・学術書を読んで楽しめるだけの力はなく、もっぱら進化論がらみの読み物を探しまわっていました。予備知識なしにそれらしい古本を買うのですが、オペロン説とアロステリック効果で有名なノーベル賞学者ジャック・モノー「偶然と必然」のような名著に訳もわからず偶然行き着いたりしていました。さらに共同受賞つながりでフランソワ・ジャコブ「生命の論理」だとか、とにかく片っ端にという感じになりました。現代なら、「モノー「偶然と必然」を買った人はこれも買っています…ジャコブ「生命の論理」」、みたいに関連書籍を提示してくれる便利ですね。その代わりに、ここではそれぞれのお店に特徴というか高い専門性があるため、漠然と求める「こんな感じの」という本に出会う確率が高くなり、既知とのいい距離感で未知に触れられたと思います。うまくそんな感じの本を手に入れますと、そのままいつもの喫茶店で読むというのも楽しみの一つでした。この界限(の裏通り)には今でも当時と変わらない雰囲気のまま続いている喫茶店も多く、古書とのレトロ感が何とも言えずよい感じです。

上の二つもそうですが、買っていたのは結果的に「みすず書房」の古本ばかりで、ホントにここはいい本をだすなあと思います(たまには新品買ってやれよ…ですね)、どの本の装丁もシンプルだけどすごく知的な感じで(古本ならなおさら…匂いも含めて)、持っているだけで自分が変わったような気分になるので、装丁だけで思わず買ってしまいそうなくらいです。実際とにかく失敗がありませんし、学問ちっくでたいてい面白かったのです。時々、散逸構造だとか不確定性原理だとか不明なものが混ざっていましたが、お馬鹿な自分が悪いのであって、みすず書房は悪くないのです。奥さんが家にあつたみすず書房の本のことを「みすずちゃん」たちと呼ぶので、どこの近所の子供さんなのだという感じでしたが、私の中では、いつまでも廃れることなく、巨人たちの知の媒体として機能するが故に古本という形をとっているイメージなので「…ちゃん」ではないです。

今でも機会があれば神保町に足を運びますが、いわゆる難しい本は昔に比べてすごく相場が高くなっている気がします。昔は「とりあえず」と気軽に買ったものですが、今では理学系の専門書なのに元値の何倍とかもあって悩むことが多くなりました。専門的であればあるほど多くの人には読まれないから数は減る一方、絶版しても有用なもの(唯一無二で今でも必要なものなど)は希少性が増し、専門的で深いものを求める人は存在するのでプレミアがついても売れるということなのでしょう。図書館の蔵書もよく似た状況だと感じていて、限られたキャパで何を残して何を捨てるかも、何を重要視するかという基準が多様なせいもあり、難しいことだなと思います。

古書街の古本屋や歴史の長い図書館などの静かに淀んだ空気の中で「書籍の加齢臭」を感じると、人間の知的活動の歴史(?)や未知の荒野(?)を知りたいなどと思って「いた」かつての青臭い自分を思い出して懐かしい気持ちになります。と言いつつ、妙に角張った懐古趣味やみすずちゃんみたいな堅い書物ばかりでは疲れますので、趣の違う店でもう少し古い時代、昭和40～50年代の音楽雑誌や映画・芸能関係の雑誌に触れたりするのもよいと思います。50代くらいの方限定ですが、懐かしい気持ちになるどころか奇妙なタイムスリップ感が味わえると思います。神保町にはあらゆる分野の古本屋がありますから本の楽しみ方も多様です。



ある書籍の所蔵印 をたどって —佐賀大学附属 図書館への期待

教育学部 鬼嶋 淳

今、私の手もとに一冊の書籍がある。1936年に出版された千石興太郎・島田日出夫著『日本農村産業組合の展望』（高陽書院）である。数年前に佐賀大学附属図書館の除籍図書となっていたものを譲り受けた。私がこの本を手にしたのは、もちろん内容に関心があったからではあるが、それ以上に興味深かったのは、本を開いたときに目に飛び込んできた数多くの蔵書印であった。

判別できるものをいくつか紹介しよう。本を開くと表紙裏には、「佐賀県立青年学校教員養成所圖書印」「佐賀青年師範学校圖書之印」と所蔵印が捺されている。隣のページには「佐賀師範学校圖書 台帳番号第511号 年月日購入」とあり、その「購入」の文字の上に「移管」と書き加えられている。さらにもう1ページめくると、佐賀大学附属図書館のバーコードが貼ってあり、隣ページの内表紙に、「佐賀県立青年学校教員養成所 図書部 一部 冊之内巻 第492号 昭和12年3月購入」、「佐賀大学図書」などの印が捺されている。除籍本のため、このすべての印の上には黒ペンで×が記されている。

こうした蔵書印を丹念に見てみると、来歴が少しだけ分かる。この本は、1937年3月に、佐賀県立青年学校教員養成所によって購入された。そして佐賀青年師範学校に移管された。その後佐賀大学の所蔵となり、数年前に除籍図書として私の手もとにやってきた、という流れである。

ところで、佐賀大学の歴史には、三つの源流がある。第一に1920年に設置された佐賀高等学校、第二に1943年設置の佐賀師範学校、第三に1944年設置の佐賀青年師範学校である。佐賀大学は三者を母体として1949年に誕生した。2003年に佐賀医科大学と統合して、現在の佐賀大学となっている（大学の歴史については『佐賀大学の物語』を参照）。

先ほど紹介した蔵書印に関連させて、第三の佐賀青年師範学校についてもう少し見てみたい。起源は1925年に設置された佐賀県実業補習学校教員養成所である。当時全国各地では、実業補習学校や青年訓練所を設置して、小学校を卒業した、あるいは卒業していなくても学齢をすぎて就職した青年たちを対象とした教育・軍事訓練を行っていた。1935年になると青年学校令が公布され、実業補習学校と青年訓練所は統合され青年学校となり、敗戦まで継続する。教育の目的は「男女青年に対し其の心身を鍛練し徳性を涵養すると共に職業及實際生活に須要なる知識技能を授け以て国民たるの資質を向上せしむる」こととされた（『国史大辞典』）。同校の充実を図るため公布されたのが青年学校教員養成所令であり、佐賀県立青年学校教員養成所はこうした経緯のなかで1935年に設置された。1944年には佐賀青年師範学校に改められ、戦後、佐賀大学へと続くのである。

『日本農村産業組合の展望』という本は、佐賀大学だけに残されているわけではない。その意味では貴重本とはいえないかも知れない。しかし、蔵書印をたどってみると、この本は佐賀大学の歴史でもある。1936年に青年学校教員養成所時代に購入され、学生たちは産業組合（現在の農業協同組合の前身）を論じた本書を読んで、豊かな農村形成を目指して学んでいたことだろう。附属図書館に所蔵されている書籍の一冊一冊は、佐賀大学で教員や学生がどのようなことを学んできたのかを示す歴史とでもいえそうだ。

歴史は自然と伝わるものではない。継承しようと思わない限り消えていくだろう。佐賀大学の知的拠点である附属図書館が、新しい学問を切りひらく場であるとともに、あるいは切りひらくためにも、佐賀地域や大学の歴史を残し伝えていく場となることを願っている。

本館・分館で行っているテーマ展示

図書館では時期や季節に合わせた図書などのテーマ展示を行っています。平成30年度も4月の新入生向けの図書の展示に始まり、本館では「ノーベル賞に関わる図書」の展示や「大学生のうちに読みたい本」の展示、1月には「本の福袋」という企画も行い利用者に好評いただきました。

また平成30年3月から1年間近く佐賀県で開催された「肥前さが幕末維新博覧会」にちなんで「幕末維新図書コーナー」を設け、幕末～明治期の佐賀藩や当時活躍した佐賀県出身の人物、この時代背景に関する図書の展示を長期間に渡って行いました。医学分館では図書館サポーターの発案のもと「こたつで読みたい本」や「忙しい人へ」など学生目線の展示や放映中のテレビドラマの原作者の作品展示などを行いました。

このほか、芸術地域デザイン学部の学生などの作品や報告書の展示を行い、これに関連する所蔵図書の展示なども行いました。



ノーベル賞関連図書展示



本の福袋



忙しい人へ向けた図書



幕末維新図書コーナー



芸術地域デザイン学部による研究報告と関連図書

ラーニング・コモন্ズの利活用

本館では、学生が主体的に学ぶアクティブ・ラーニング(能動的学修)のために、ラーニング・コモন্ズを整備しています。学生はディスカッション、ディベートなどのグループワークを行い、学習に取り組んでいます。ラーニング・コモন্ズは授業、教育・学術研究などを目的とした研修やイベントなどの専有利用も可能であり、平成30年度は下表のとおり57回の利用がありました。定期的な利用では、日本人学生と留学生が英語や中国語などで国際交流を図る「カルチュラル・エクスチェンジ・ラウンジ」が開催されています。

	利用回数
授業*	34
研修、イベント等	23

*授業には新入生の図書館オリエンテーションを含む



「カルチュラル・エクスチェンジ・ラウンジ」の様子
(グループ学習スペース)

ラーニング・コモন্ズは、学生サークルなどの展示スペースとしても利用されており、写真部などの文化系サークルの発表の場になっています。また、図書館が主催するイベント等の際にもラーニング・コモন্ズを活用しています。図書館では、より一層学生・教職員にラーニング・コモন্ズを利活用いただけるよう、教育・学術研究の支援活動に取り組んでいきます。



写真部の展示
(多目的スペース)



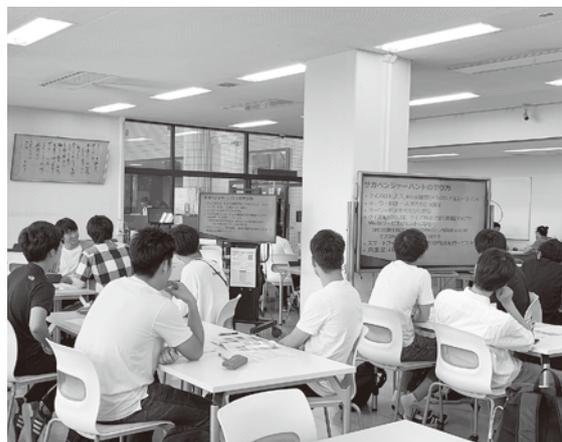
七夕のときの様子
(医学分館エントランスホール)

オリエンテーション・講習会

授業の1コマを使用して、新入生向けの図書館オリエンテーション、学部3年生以上向けの講習会を実施しています。毎年、担当職員間で内容を検討のうえ、より良い内容で実施できるよう努めています。平成30年度は以下のとおり実施しました。(実施回数・参加人数は12ページを参照)

<本館>

- ・新入生向け
図書館利用法全般
…OPACの使い方、図書館資料の概要、図書館サービスの使い方、館内資料配置や設備の説明、図書館のWebサービスの紹介等
(アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容で実施)
- ・学部3年生以上向け
文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習
…CiNii Articlesの使い方、電子ジャーナル、リンクリゾルバの紹介等
(オンデマンド対応)



本館

<医学分館>

- ・新入生向け
図書館利用法全般
…館内案内、OPACの使い方、医学分館資料の概要や特性、図書館サービスの使い方、図書館のWebサービスの紹介等
- ・学部3年生以上向け
文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習
…医中誌Web・PubMedの使い方、電子ジャーナル、リンクリゾルバの紹介等
(2～3コマを使用。院生には文献管理法を含む)



医学分館

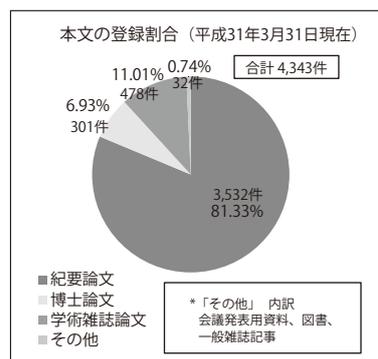
佐賀大学機関リポジトリ

佐賀大学機関リポジトリは、佐賀大学で生産された学術雑誌論文や紀要論文等の学術情報コンテンツを登録保存・公開するシステムです。平成20年3月に正式運用を開始し、紀要論文、博士論文を中心に収集・登録を行っています。

累積登録件数：

4,343件(平成31年3月31日現在)

(平成30年度新規登録件数：231件)



図書館サポーター＝さらりーずの活動

平成30年度も医学部学生を主体とした図書館サポーターの活動を行いました。8月9日(木)には学生選書ツアーを行い、図書館サポーター学生のほか本庄地区からも参加者があり、計12名が参加しました。昨年度と同じく丸善ジュンク堂書店福岡店に赴き、広い店内のさまざまな分野の図書から、多くの図書が選ばれました。選ばれた図書は納入後、本館・医学分館それぞれの学生選書コーナーに展示しました。

医学分館では月2回程度のサポーターミーティングを開催し、館内の企画展示などを行いました。またオープンキャンパスの際にも図書館のイベントに協力しました。



図書館サポーターミーティング



学生選書ツアー

オープンキャンパス

平成30年8月10日(金)に行われた佐賀大学のオープンキャンパスの際は、図書館にも多くの高校生が来館しました。

本館では、佐賀新聞記事データベースを用いて生まれた日の新聞記事を検索・閲覧できるコーナーを設けました。

医学分館では恒例のオリジナルうちわ、しおり作りを催したほか、図書館サポーターの協力で医学部の現役学生が受験期に読んでいた本や受験勉強に使っていた本、入学後によく用いてきた本や作成したノートなどの展示を行い、多くの来場者が手に取って興味深そうに見ていました。また図書館サポーターが来館した高校生を相手に展示資料や館内を案内しました。



新聞記事コーナー（本館）



展示コーナー（医学分館）

図書館月間2018



図書館月間2018チラシ

附属図書館では、図書館活動の目的のひとつである社会貢献のため、地域住民の方に生涯学習の場を提供するとの考えのもと、毎年11月を図書館月間として各種イベントを開催しています。

平成30年度は、「逢いに来んしゃい! 佐賀大学の宝の数々に」をテーマに、「来てみんしゃい! 佐賀大学へ」企画としてシンポジウムと展示会を開催しました。



講演の様子



七絃琴の演奏



貴重書展示

○シンポジウム

日時：11月25日(日) 13:00～17:00

会場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室ほか

・講演

演題：「小城藩の蔵書を充実させた夭折の天才ー鍋島直嵩」

講師 白石 良夫氏(元佐賀大学教授)

演題：「小城藩主がもっていた『十帖源氏』著者書入本」

講師 中尾 友香梨氏(佐賀大学准教授)

・七絃琴の紹介・演奏、薫物体験ワークショップ

・ギャラリートーク(展示書籍紹介)

参加者：71名

○貴重書展示

日時：11月9日(金)～11月29日(木)

会場：佐賀大学附属図書館 本館1階多目的スペース

実習・研修生の受け入れ

平成30年度は以下のとおり、実習・研修生の受け入れを行いました。

図書館業務のイメージとして強い貸出などのカウンター業務や配架業務だけでなく、図書の発注・受入・目録・装備といった、利用者の立場からは見えにくいバックヤードの業務も体験してもらい、図書館で行われている業務の全体像を見ることができた内容としました。

* 図書館実習

期間：8月20日(月)～8月31日(金)

人数：1名(佐賀女子短期大学 2年生)

* 教員研修(企業・福祉施設等体験研修)

期間：8月20日(月)、8月22日(水)

人数：2名(佐賀市立鍋島小学校教諭、佐賀県立大和特別支援学校教諭)

* 職場体験

期間：8月28日(火)～8月29日(水)

人数：3名(佐賀大学教育学部附属中学校 2年生)

* インターンシップ

期間：9月18日(火)～9月21日(金)

人数：1名(佐賀大学芸術地域デザイン学部 3年生)



職場体験 ポップ作成中



おすすめ本紹介
レイアウトもおまかせしました

図書館の施設整備

平成30年度は本館で3階、4階のトイレの改修を行い、利用環境を改善しました。また、利用者からの要望に応じて、2階、3階の閲覧机の一部に、十字型の仕切りを設置し、集中して学習できる環境を整備しました。



防災訓練を実施

本館で例年行っている附属図書館独自の防災訓練を、平成31年2月28日(木)に①DVD教材視聴受講、②消防署の方の講話、③机上訓練というプログラムで実施しました。訓練には図書館職員14名が参加し、職員の災害時・日常の防災担当内容や館内消防設備の確認を念入りに行い、防災意識を高めました。

消防署の方の講話では、実際に消火栓・消火器の設置場所に移動し、使い方を学びました。

最後には訓練を通して学んだことをもとに、次年度の防災訓練に向けてグループディスカッションを行い、効果的な訓練内容や過去の防災訓練で有意義であったものなどの意見を出し合いました。話し合いの結果、次年度はシナリオ型の防災訓練を実施することになりました。

いざという時に行動できるよう、今後も継続して防災訓練を実施していく予定です。



DVD 「職場で取り組む防火管理」を視聴



消火器の使い方を学ぶ

図書館統計

(平成31(2019)年3月31日現在)

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

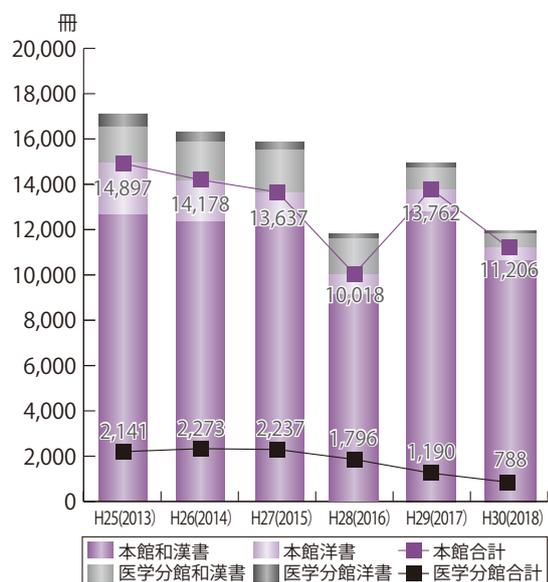
	和漢書	洋書	合計
本館	418,859	174,547	593,406
医学分館	69,167	46,282	115,449
合計	488,026	220,829	708,855

雑誌所蔵種類数

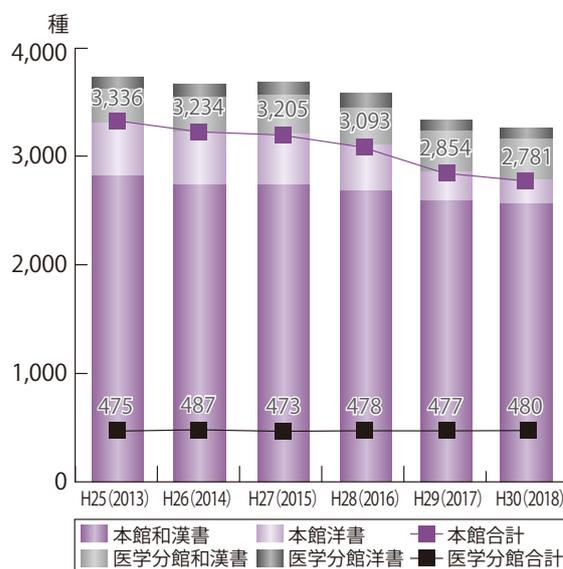
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,544	2,977	9,521
医学分館	1,240	1,120	2,360
合計	7,784	4,097	11,881

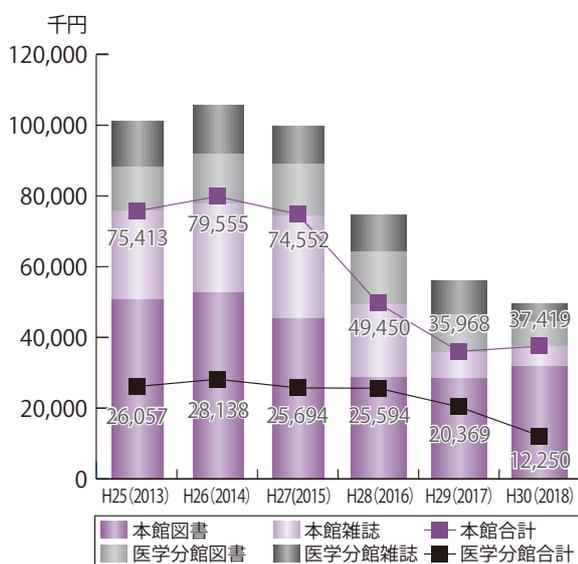
図書受入冊数



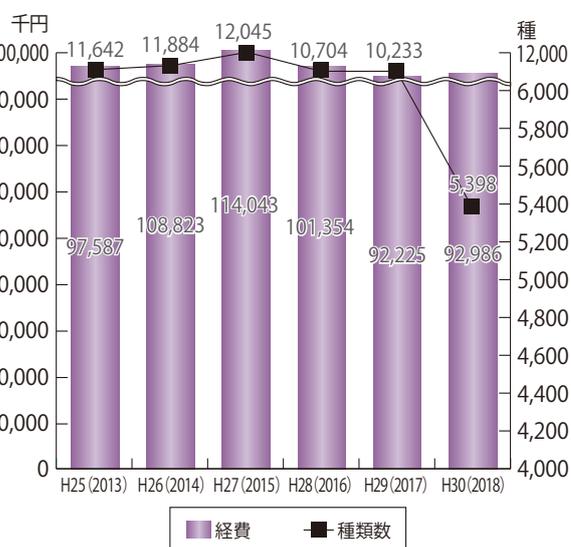
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



サービス統計

開館日数

〈平成30(2018)年度〉(日)

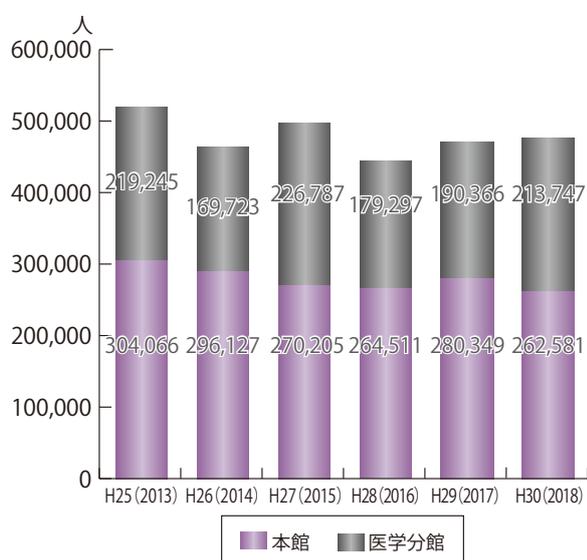
	本館	医学分館
平日	236	241
土・日・祝日	110	106
合計	346	347

利用対象者数

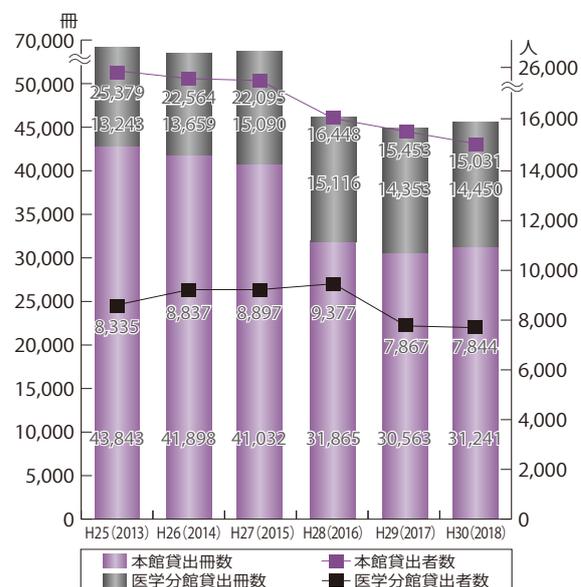
〈平成31(2019)年5月1日現在〉(人)

	本館	医学分館	合計
学生	5,724	1,083	6,807
教職員	1,111	1,391	2,502
合計	6,835	2,474	9,309

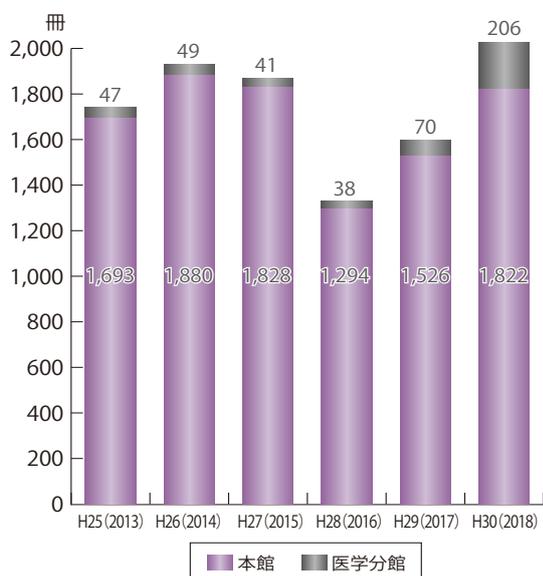
入館者数



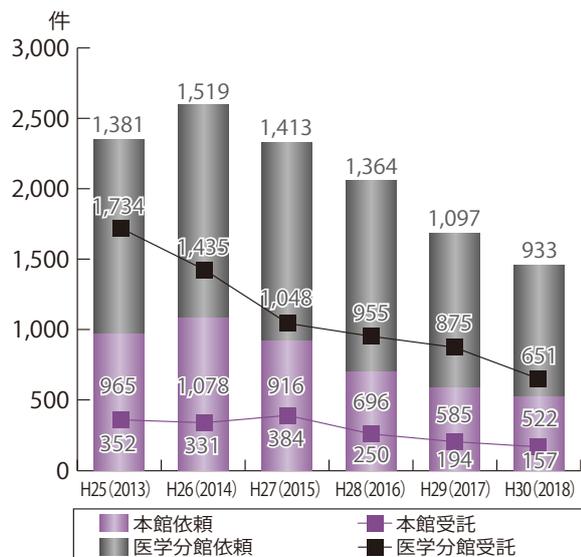
貸出冊数と貸出者数



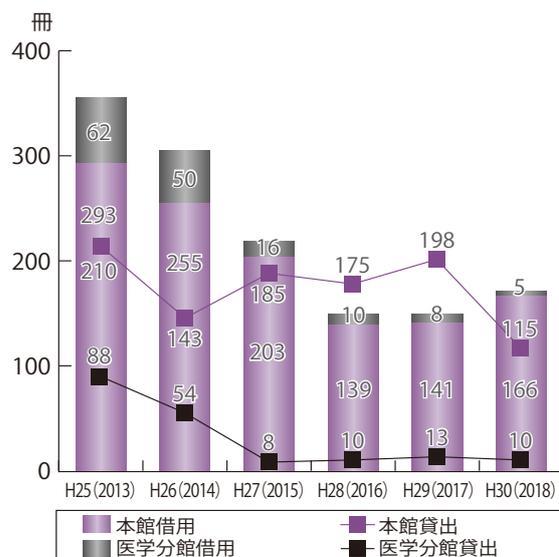
一般市民への貸出冊数



文献複写件数



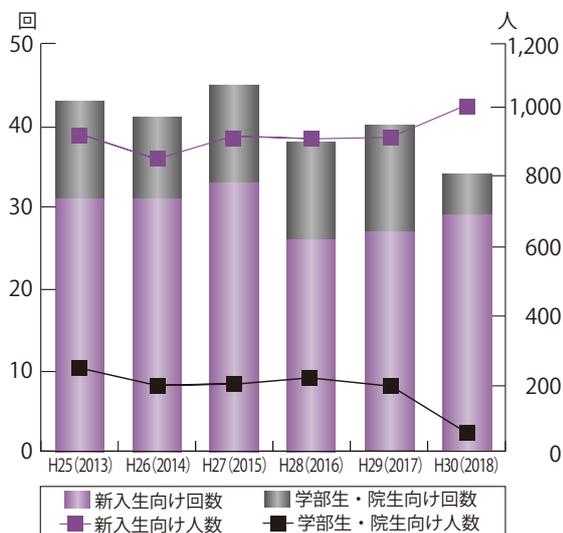
相互貸借冊数



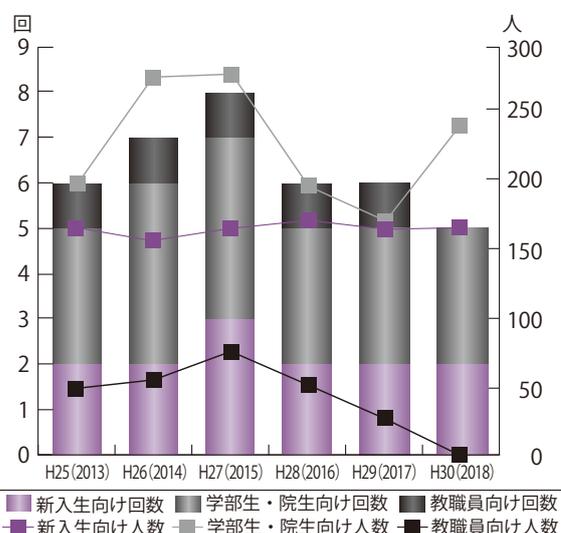
図書館オリエンテーション・講習会

			H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
本館	新入生向け	回数	31	31	33	26	27	29
		人数	934	860	929	924	928	1,015
	学部生・院生向け	回数	12	10	12	12	13	5
		人数	241	191	195	213	207	54
医学分館	新入生向け	回数	2	2	3	2	2	2
		人数	166	156	169	172	166	167
	学部生・院生向け	回数	3	4	4	3	3	3
		人数	198	272	275	191	172	242
	教職員向け	回数	1	1	1	1	1	0
		人数	47	57	78	52	27	0
本館	参加総数		1,175	1,051	1,124	1,137	1,135	1,069
医学分館	参加総数		411	485	522	415	365	409
参加総数(合計)			1,586	1,536	1,646	1,552	1,500	1,478

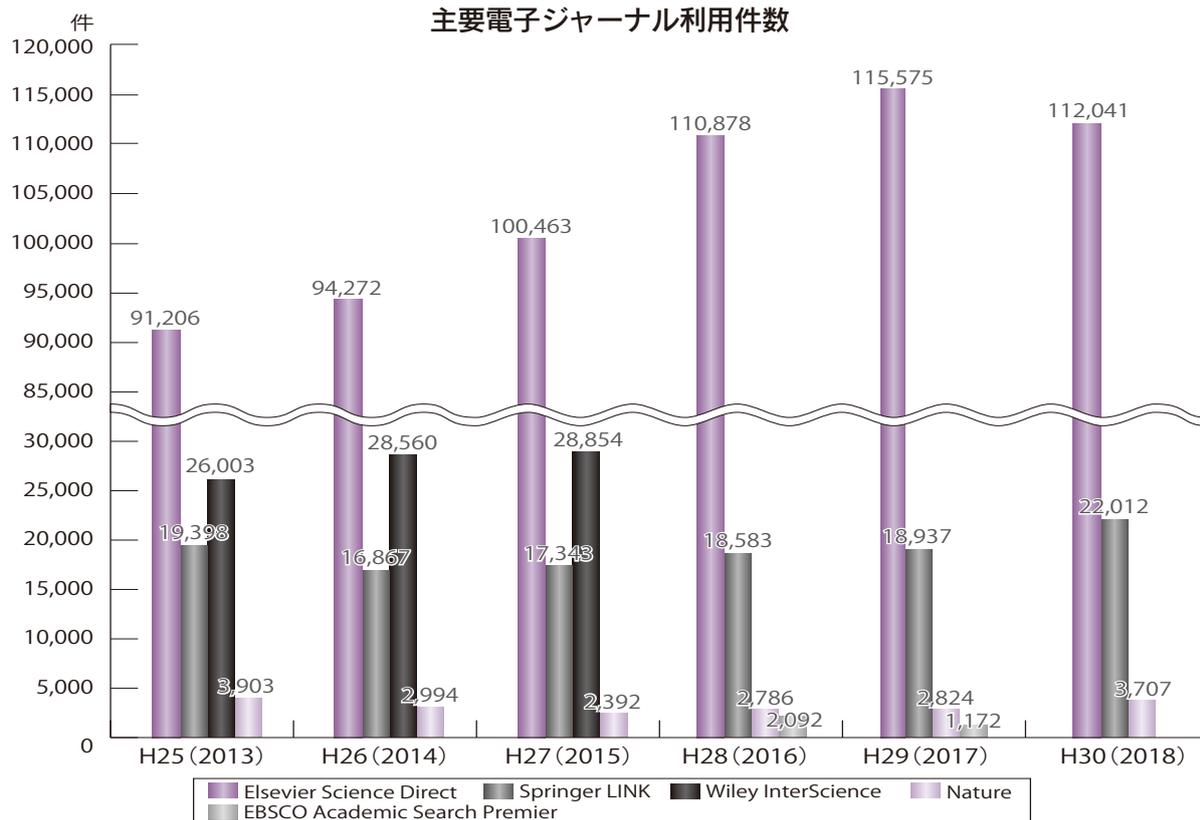
本館



医学分館



主要電子ジャーナル利用件数



・ Wiley InterScience は H27(2015) まで ・ EBSCO(Academic Search Premier) は H28(2016) から ・ EBSCOはH30から中止

文献データベース利用件数

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
Scopus	11,164 (34,083)	12,903 (33,671)	13,305 (33,772)	12,011 (33,922)	10,413 (33,136)	10,506 (28,737)
間蔵	743	1,040	781	730	1,035	1,720
ヨミダス歴史館	(1,230)	(1,127)	(892)	(453)	(918)	(3,287)
日経テレコン	(248,024)	(312,650)	(285,606)	(147,244)	(285,718)	(201,356)
日経BP記事検索	(10,245)	(7,507)	(6,748)	(5,623)	(5,624)	(3,931)
ジャパンナレッジ	155	824	1,030	647 (4,314)	791 (4,760)	626 (3,710)
UpToDate	(2,866)	(3,596)	(2,247)	(2,641)	(4,397)	(3,414)
メディカルオンライン	(17,168)	(22,004)	(24,963)	(26,787)	(25,159)	(29,208)
医中誌Web	16,634 (55,738)	18,738 (65,725)	18,959 (66,889)	18,979 (64,202)	16,040 (51,640)	17,426 (61,528)
Ovid(MEDLINE, EMBR)	(9,437)	(8,602)	(10,621)	(9,239)	(7,297)	(4,851)
Cinahl	130 (260)	143 (362)	469 (516)	309 (1,344)	143 (316)	140 (524)

* 括弧内は検索回数または本文利用回数

受入資料紹介

学生用図書

平成30年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入了ました。

教員推薦図書 1,015冊 学生希望図書 310冊 図書館推薦図書 2,339冊 継続購入図書 639冊

寄贈図書

- ・教育学部教授 木原誠
イエイツ・コード：詩魂の源流：面影の技法 / 木原誠 著(外1点)
- ・理工学部名誉教授 剣持勝衛
局面論講義 / 剣持勝衛 著
- ・地域学歴史文化研究センター 吉岡誠也
ユネスコ世界遺産高校生会議 in 佐賀2018報告書(外1点)
- ・教育学部同窓会(有朋会)会長 宮尾正隆
有朋会130年記念誌：創造と継承 / 佐賀大学教育学部同窓会(外1点)
- ・鹿島市民図書館
鹿島市明治維新百五十年記念<再発見>鹿島の明治維新史(外4点)
- ・公益社団法人日本コンクリート工学会
熊本地震に関する特別委員会報告書 / 日本コンクリート工学会
- ・佐賀県立図書館
佐賀近世史料(第10編 第6巻) / 佐賀県立図書館(外3点)

(敬称略・順不同)

人事異動

(平成30年4月2日～平成31年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
出向	30.10.1	北原綾子	東京農工大学	情報図書館課司書 (図書・雑誌担当)
採用	"	大石弘世	情報図書館課事務員 (図書・雑誌担当)	
採用	"	川部修平	情報図書館課司書 (医学分館担当)	
退職	31.1.31	友田ゆうこ		情報図書館課事務補佐員 (利用サービス担当)
採用	31.2.1	東泰恵	情報図書館課事務補佐員 (利用サービス担当)	
定年退職	31.3.31	岸川芳之	(再雇用(フルタイム))	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)
採用 (再雇用)	31.4.1	岸川芳之	情報図書館課事務員 *再雇用(フルタイム)	情報図書館課係長 (利用サービス主担当) *定年退職
命	31.4.1	岸川芳之	情報図書館課係長 (医学分館主担当)	
配置換	"	正岡美奈子	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)	情報図書館課係長 (医学分館主担当)
配置換	"	三瀬花菜	医学部経営管理課事務員 (経営企画担当)	情報図書館課事務員 (利用サービス担当)
採用	"	山崎常心	情報図書館課事務員 (利用サービス担当)	

図書館日誌(行事・会議・研修等)

平成30年

- 4月 1日 図書館情報誌「さりり」10号発行
- 4月19日 第48回 九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館:鹿屋体育大学 於:ホテルウェルビューかごしま)
- 4月20日 第69回 九州地区大学図書館協議会総会
(当番館:鹿屋体育大学 於:ホテルウェルビューかごしま)
- 5月25日 平成30年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館:国際医療福祉大学 於:国際医療福祉大学)
- 6月14日 第65回 国立大学図書館協会総会
～15日 (当番館:北海道大学 於:京王プラザホテル札幌)
- 6月27日 平成30年度 第1回 附属図書館運営委員会
「平成29年度 決算(案)及び平成30年度 予算(案)について」他
- 7月11日 平成30年度 第1回 附属図書館選書専門委員会
「平成30年度 附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 7月13日 丸善雄松堂アカデミックセミナー2018(於:福岡ビル)
- 7月27日 学術情報ソリューションセミナー2018 in FUKUOKA(於:西南学院大学)
- 8月 2日 平成30年度 第1回 附属図書館医学分館運営委員会
「平成29年度 決算及び平成30年度 予算について」他
- 8月 9日 学生選書ツアー(於:福岡市)
- 8月20日 図書館実習
～31日 1名(佐賀女子短期大学 2年生)
- 8月20日 教員研修(企業・福祉施設等体験研修)
22日 2名(佐賀市立鍋島小学校教諭、佐賀県立大和特別支援学校教諭)
- 8月24日 平成30年度 佐賀県大学図書館協議会総会
(幹事館:西九州大学短期大学 於:西九州大学短期大学)
- 8月28日 職場体験
～29日 3名(佐賀大学 教育学部 附属中学校 2年生)

- 9月 5日 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 2018年度 版元提案説明会
 ～ 6日 (於:一橋大学)
- 9月18日 インターンシップ
 ～21日 1名 (佐賀大学 芸術地域デザイン学部 3年生)
- 9月20日 平成30年度 第1回 佐賀県公共図書館職員研修会 (於:佐賀県立図書館)
- 9月26日 平成30年度 第1回 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
 (当番館:有明工業高等専門学校 於:有明工業高等専門学校)
- 10月12日 図書館報「ひかり野」42号発行
- 10月26日 第66回 九州地区医学図書館協議会総会 (当番館:福岡大学 於:福岡大学)
- 10月26日 平成30年度 九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
 (当番館:鹿屋体育大学 於:鹿屋体育大学)
- 11月 9日 平成30年度 第2回 佐賀県公共図書館職員研修会 (於:佐賀県立図書館)
- 11月16日 第26回 九州地区医学図書館員セミナー
 (当番館:産業医科大学 於:産業医科大学)
- 11月24日 医学分館は医学部・附属病院災害訓練に参加
- 11月25日 図書館月間講演会 (於:附属図書館4階会議室)
 テーマ「逢いに来んしゃい! 佐賀大学の宝の数々に」
- 11月29日 平成30年度 第2回 附属図書館選書専門委員会 (メール会議)
 ～12月6日 「本館学生用図書 (学科推薦) の購入について」
- 11月30日 平成30年度 九州地区国立大学附属図書館館長・事務 (部・課) 長会議
 (於:九州大学)
- 12月14日 平成30年度 第2回 附属図書館運営委員会 (メール会議)
 ～20日 「『佐賀大学附属図書館図書除籍要領』に基づく除籍対象図書について」
- 12月20日 平成30年度 第1回 附属図書館評価専門委員会 (メール会議)
 ～26日 「平成29年度 佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告書について」

平成31年

- 1月17日 平成30年度 第3回 佐賀県公共図書館職員研修会 (於:佐賀市立図書館)
- 1月23日 本館は本庄キャンパスでの防災訓練に参加
- 2月 8日 平成30年度 第2回 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会・総会
(当番館:久留米工業大学 於:久留米工業大学)
- 2月 8日 平成30年度 第4回 佐賀県公共図書館職員研修会 (於:佐賀県立図書館)
- 2月13日 平成30年度 国立大学図書館協会近畿地区助成事業
(於:京都大学)
- 2月28日 附属図書館防災訓練 (於:附属図書館4階会議室)
- 3月 1日 平成30年度 国立大学図書館協会九州地区助成事業
(於:鹿児島大学)
- 3月13日 2018年度 オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)総会
(於:一橋大学)
- 3月15日 医学分館は鍋島キャンパスでの消防訓練に参加
- 3月25日 平成30年度 第3回 附属図書館運営委員会
『佐賀大学附属図書館図書除籍要領』に基づく除籍対象図書について」他

貴重書紹介

小城鍋島文庫『新編水滸画伝』



図1 巻一冒頭



図2 前帙(巻五)刊記

解説

三国志演義、西遊記、金瓶梅と共に中国小説の四大奇書に加えられる水滸伝は、遅くとも17世紀前半には日本に伝来していた。当初は主に漢学・唐話に習熟した人々の間で読まれていたようだが、やがて庶民の娯楽的な読み物として享受されるようになる。その受容を支えたのは、中国で成立した「原書」はもちろん、それらをもとに日本で刷られた「和刻本」や、書き下し文のごとく翻訳された「通俗物」、さらには「翻案」されるなどして流通した水滸伝関連書であった。今

回紹介する『新編水滸画伝』もまた、我が国における水滸伝の受容を支えた作品の一つである。

『新編水滸画伝』は全九編からなる長編読本である。なお、「読本」とは絵を主体とした「絵本」に対し、読むことに重きをおいた文字を中心とする近世小説のことである(図1)。曲亭馬琴が初編を著し、二編以降を高井蘭山が継いだ。葛飾北斎が全編の挿絵を描いたことでも知られている。

成立の発端は、書肆の前川弥兵衛と角丸屋甚助が馬琴を訪い、かの鳥山石燕が著した『水滸画潜覧』(安永6年<1777>刊)のような絵入りの、それでいてより詳しい水滸伝の訳文を依頼したことによる。この申し出に対して馬琴は「嘗、水滸伝を讀に食を忘れて厭ことなく、灯を秉て倦ときなし」(序巻「訳水滸弁」として、積極的に執筆に取り掛かり、文化2年(1805)に、まずは初編の前帙(序巻および巻一～五)が刊行され、次いで文化4年に後帙(巻六～十)が上梓された。

この後、馬琴は角丸屋甚助による訴訟沙汰に巻き込まれたことをきっかけに続編の執筆を辞し、やがて蘭山が嗣編することとなる。そうして数々の書肆の手を経て、初編前帙刊行の33年後に全九編が出来た。近代に至ると、様々な活字本が刊行され、より多くの読者の手に渡って読み継がれた。

小城鍋島文庫には、馬琴が著した初編の前帙6冊と後帙5冊の計11冊が蔵される。各帙の刊記には馬琴へ執筆を依頼した前川弥兵衛と角丸屋甚助の名が記されることから、現存する『新編水滸画伝』諸本の中でも、早い時期に刷られたものの一つということがわかる(図2)。

なお、図3は楊樹の上に鴉が巣を作り、それが哇々と騒がしいことを厭うて、宴の最中に魯智深がその大木を引き抜き、自身の怪力を示す場面である(巻八)。

(地域学歴史文化研究センター 村上義明)



図3 魯智深、菜園に綠楊樹を抜く

参考文献

- 高島俊男 著
『水滸伝と日本人 江戸から昭和まで』
(大修館書店、平成3年)
- 徳田武 校注
岩波文庫『近世物之本江戸作者部類』
(岩波書店、平成26年)

引用に際して適宜通行の字体に改め、句読点を付した。